

## 1

## 花王株式会社

各社の考え方	
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>全社のライフサイクルアセスメント（LCA）を実施し、ホットスポットがScope3であることが判明。その結果を基に、2009年に「花王環境宣言」を発表し、ライフサイクルベースの全社CO2排出量、および製品使用段階の水使用量を削減する目標を公表。</li> <li>上記目標の進捗状況を把握し、削減活動を推進するため、個別製品並びに全社のライフサイクルCO2排出量、使用段階の水使用量を算定している。</li> </ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品開発において、LCAを活用している。</li> <li>“いっしょに e c o”マーク（製品環境ラベル）の表示基準の要件にライフサイクルCO2排出量の低減を定めている。</li> <li>顧客からの個別商品の環境負荷の問い合わせ時に利用。</li> <li>サステナビリティデータブックで上記目標進捗状況を社会に報告、花王エコラボミュージアム、各種環境展示会での活動紹介、および各種アンケートへの回答対応。</li> </ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリューチェーンに渡り環境負荷を「見える化」することで、適切な地球環境保全につなげができる。ホットスポットを顕在化することにより、有効な対策が可能。</li> <li>リスクの回避、事業機会の創出にもつながる。</li> <li>解析の結果、使用段階の負荷が大きいことが判明。使用段階の環境負荷を低減できる製品を開発・提供している。このような、お客さまど“いっしょに e c o”に加え、ビジネスパートナーや社会と“いっしょに e c o”を掲げ、ライフサイクル視点の取組みの展開につなげている。</li> </ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別製品及び全社の L C I データを計算する社内システムにより算定。約1万の製品データがデータベース化されており、社内各種データベースとのリンクにより登録作業の効率化を図っている。</li> <li>製品開発担当者は上記システムの保有データを利用して開発製品の L C A を実施し、製品開発活動に活用している。</li> </ul>

## 2

## 花王株式会社

各社の考え方	
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料調達段階については、製品のコンパクト化、容器の軽量化、詰替え化による材料節減などで対応。“いっしょに e c o ”の一環で、サプライヤーとの協働取組みの重要性も認識。</li> <li>製造段階については、工場・事業場の省エネ等各種削減活動を実施。</li> <li>使用段階については、使用段階の負荷を低減する製品を開発・提供することで対応。例えば1回すすぎが可能な衣料用洗剤の提供。</li> <li>廃棄段階については、容器の軽量化、つめかえ化による材料削減等に加え、バイオポリエチレン導入等を進めている。</li> </ul>
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会全体の課題として、誰もが容易に L C A を実施できるよう、計算ルールやデータベースの整備、計算ツールの普及等が挙げられる。</li> </ul> <p>The diagram illustrates the distribution of greenhouse gas emissions across five supply chain stages. The stages are represented by icons: palm tree for raw material procurement, factory and computer for development/production/sales, truck for transportation, bottle and hand for use, and trash bin for waste/recycling. Above each stage is a green speech bubble indicating the percentage of emissions: 38% for raw material procurement, 8% for development/production/sales, 2% for transportation, 39% for use, and 13% for waste/recycling. The entire diagram is enclosed in a light gray box with the text "※ 2019年実績" at the bottom right.</p>
⑦ その他（任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤーに対し、主な原材料の L C I データの提供をお願いし、L C I データの整備・精緻化に努めている。</li> </ul>

## 3

## 花王株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2019年1月～2019年12月	原単位
	活動量	
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料投入量	● サプライヤー調査結果、外部データベース、文献値、産連表の原単位からの換算値
カテゴリ2「資本財」	● 投資額	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 購入量	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 原材料投入量 ● 製品量	● 省エネ法・温対法の算定・報告・公表制度の電気・燃料に対する排出係数、外部データベース等
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 排出重量	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）
カテゴリ6「出張」	● 社員数	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」（環境省、経済産業省）

## 4

## 花王株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2019年1月～2019年12月	
	活動量	原単位
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 社員数	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」(環境省、経済産業省)
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● スコープ1,2に含む	●
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 輸送製品量	● 花王算定
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 販売製品量	● 花王算定
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 独自シナリオ設定	● 省エネ法・温対法の算定・報告・公表制度の電気・燃料に対する排出係数、外部データベース等
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 独自シナリオ設定	● 外部データベース、文献値
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 該当活動なし	●
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当活動なし	●
カテゴリ15「投資」	● 投資金額（持ち株分を対象）	● 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」(環境省、経済産業省)
「その他」	●	●

5

## 花王株式会社

## サプライチェーン排出量算定結果

